2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	専門職連携		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2階、3階
担 当 教 員	夜久　泰子 松岡　清子	実務経験とその関連資格	看護師　大阪市立病院等で23年勤務			

《科目目標》

各専門職の違いを理解し、互いの専門性を認め合いながら事例について協働し、支援の方法を考え連携協働の基礎を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】協働学習の取り組み20%　課題レポート80%
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

《使用教材(教科書)及び参考図書》

資料

《授業外における学習方法》

授業以外での準備学習の具体的な内容を参照

《履修に当たっての留意点》

各専門職の専門性を理解することは、看護の専門性の理解にもつながる。また、保健・医療・福祉における専門職がどのように連携・協働するかを学ぶことは、地域包括ケアシステムの具現化にもつながる学びである。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	各専門職の役割と連携協働の必要性を述べることができる	iPad 資料	
		各コマにおける授業予定	・保健・医療・福祉に関わる各専門職(診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士)の業務範囲、法的根拠 ・地域包括ケアシステムにおける多職種連携協働の必要性		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	急性期事例の状況判断と必要な看護を考えることができる	iPad プロジェクター 資料	状況設定についてわからない箇所を調べ、状況判断をすすめていく
		各コマにおける授業予定	・情報から身体状況の把握とさらに理解を深めるために必要な情報 ・事例について必要な看護		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	急性期事例について各専門職(診療放射線技師、臨床工学技士、看護師)の観察の視点(対象理解の視点)がわかる(多職種でのGW)	iPad プロジェクター 資料	状況設定についてわからない箇所を事前に調べておく
		各コマにおける授業予定	・看護師の観察の視点 ・診療放射線技師の観察の視点 ・臨床工学技師の観察の視点		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	Teamで連携し、事例患者への必要な関わりを考えることができる	iPad プロジェクター 資料	
		各コマにおける授業予定	・各専門職の関わり ・連携協働する上で必要なコミュニケーション		
第	演習	授業を通じての到達目標	課題となる事例のICFを作成し、看護の必要性や多職種の必要性について考えることができる	iPad	

5回	習形式	各コマにおける授業予定	ICF作成 自分の職種lの強み、弱みを明らかにして述べることができる	プロジェクター 資料	
授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	OT、PT、NSで同時例に取り組むことで、互いの職種を理解する。 専門職が協力することで，患者に対して単一の専門職が関わる以上の関わりができることを体験することができる		
		各コマにおける授業予定	①情報交換をする重要性を知る ②話し合うことで新しいアイディアが生まれることを認識する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	持参した課題をもとに、職種間での意見交換ができる	iPad プロジェクター 資料	
		各コマにおける授業予定	分からない情報の教え合いをすることで、多職種のでの共通点を見出す。多職種間での共通点を明らかにすることで。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	異なる点は，専門職間の違いを表し，違いは専門職間の補完や新しいアイディアの発生を促進することを体感することができる	GW　発表	
		各コマにおける授業予定	保健・福祉・医療の多職種の専門性と専門職連携のために必要なことについてまとめ発表する		